

潮流

大津島(平成24年8月1日現在)
人口 371人(男156人 女215人)
高齢化率 69.8%

2012
9月号
No.227

題字 安達 照子



ジャガイモ団子入りスープ (2人前)

食欲が進まない・・・～夏の疲れを、スープで補いましょう。
島かあさん



- | | | |
|---------|-------|------------------|
| じゃがいも団子 | | |
| じゃがいも | 100g | 茹でてつぶし、
団子を作る |
| 片栗粉 | 大さじ1 | |
| 塩 | 少々 | |
| スープ | | |
| 水 | 300cc | コンソメ 1つ[2g] |
| 玉ねぎ | 60g | ベーコン 10g |
| オクラ | 20g | 塩 小さじ1/3 |
| こしょう | 少々 | |

大津島の夏～盆踊り～



馬島・柳浦
(平家踊り)

8月14日。今年も出身者の方など100人以上の方が踊りました。



刈尾さんさ踊り

8月15日。帰省者の子供たちが元気よく合いの手を入れ大変盛り上がりしました。



本浦さんさ踊り

8月15日。三方を山に囲まれた静かな港に、カラオケ・花火・盆唄がこだまして…



瀬戸浜
(ハンジキ踊り)

8月15日。伊代の時代から、今も変わらぬ「ハンジキ踊り」の口説き。伝統は今も続く。

潮風の吹く穏やかな島の生活にも慣れました。味も形も趣がある渡り蟹が好きです。

季節の俳画
安達照子

夕涼みをする人も少なくなりりましたが、残暑はまだ厳しい様です。高原ではコスモスが咲く頃でしょうか。

八月十四日・十五日に盆踊りが行われた。島の盆踊りの文化は、各集落によって特徴がある。

馬島・柳浦の「平家踊り」は、袴や浴衣を着て、槍を持つ者と、扇子を持つ者が、交互に並びながら円になる。間合いを保ちながら踊る姿は、勇ましさと優雅さを兼ね備えている。

瀬戸浜の「ハンジキ踊り」は、シャコが飛び跳ねる様に見えるのが、名前の由来になっている。

刈尾は、立派な櫓を組み、多くの帰省者で賑わいを見せている。

本浦は、初盆の家や有志の寄付により、花火を打ち上げる習慣がある。

これら全てが大津島の夏の風物詩である。

波止に鳴り響く太鼓の音は、人々の再会の合図となり、同時に夏の終わりが近いことを、島に告げるのである。

島おこし隊員

かつて瀬戸内海は、関門から上方に到る、西日本の交通の大動脈であった。

歴史書によれば、その航路の条件は、風波が穏やかで、避難もし易い地形の陸地沿い、であったという。また、適当な間隔で宿泊できる港町があった。このあたりでは三田尻と下松である。

では、この間の海の街道はどこを通っていたのだろうか。右の条件からすれば、図に示すルートであったに違いない。

すなわち、本浦の正面の三田尻港を出た船は本土沿いに東へ進み、桑原沖で南へ転じて近江の横島の端をかすめ、瀬戸浜と蛙島の間を抜け刈尾・天ヶ浦・馬島の沖合間近を進み、杵島の端へ向かったと思われる。

七人墓・十人墓の話や、「松蔭日記」にある近江での避難の一夜などは、その裏付けと言えよう。

とすれば、大津島の傍らを通った歴史上の大街道や重大な出来事は数多い。

陸の街道と異なり、海の街道は史跡の類を遺さない。けれども、心の内にそれらを想い浮かべるとき、日々眺めている海は、より感慨深いものとなるだろう。

大津島の海の街道の歴史について、時代を追って記してみたいと思う。



潜望鏡



文=松本 紀是
(回天記念館館長)

馴染みの島だよりが合併し、リニューアルされた「潮流」が創刊の運びとなった。平成元年1月「コミュニティおおづ」が発刊され、平成5年4月姿を変え潮流1号を、平成23年4月には、島おこし隊の誕生で「しまおこし」が創刊された。15年前子供たちに島の好きなところ、嫌いなところのアンケートを実施している。ダントツで好きなところ「海」、嫌いなところ「なし」であった。これは50年前も今も変わっていないのである。みんな自分達の島が好きなのである。

大津島を離れて暮らす人が、休日は島に帰りに参加しようという集いがあり、遠方から帰島した人もあったと耳にした。

輪はだんだんと広がっているようで、自分の生まれた地を、再発見しようというのである。生まれたいところ、住んだところは、心のふささである。島を離れて暮らす人たちも「潮流」を心のふるさとにすることだろう。やがて島おこしの大きなエネルギーが生まれるに違いない。

さらば おちゅう校舎



文=松本 千恵子

本浦の大津島小・中学校校舎がなくなる。昭和二十二年、徳山市立第八中学校として、元兵舎跡・現砲台山跡にて開校された。昭和二十六年には、現在の地に移築した。「ええ広い田で、なんぼう学校のためとは言われても、惜しゅうて惜しゅうて。あの頃は、米の採れる田は命じゃったから。それでもやっぱり学校のためと思うて差し出したものいね。」往時を

中学校は、常に島の文化の中心であった。しかし生徒数減少に伴い、平成十八年に大津島小学校へ併設され、本浦から子供の姿が消えた。それでも校舎は静かに時を重ねた。そしてついに最後の時が。たくさんの卒業生のたくさんの思い出を刻んだ校舎は無くなってしまう。

淋しい限りである。跡地には、体験滞在交流事業の研修施設ができるというのである。また違う形で、本浦に若い人達の声が、響くであろう。

島おこし隊員 活動報告 ◆体験型教育旅行



文=島おこし隊員

隊員ブログ
<http://i-8996-ozsima.jugem.jp/>

去る7月24日～25日に、周南市立今宿小学校の小学生59名が20家族に民泊し大津島の生活体験を行う事業のサポートをしました。

◆ふるさと便り発行

大津島の出身者向けに、大津島年間行事予定表と各集落からの手紙を送るお手伝いをしました。

◆里の案内人

新規移住者受け入れプロジェクトが本格始動しました。島民が案内人になるため、現在は、空き家調査、お試し暮らし住宅の設置を目指し、第二回目の講習会を8月31日に受講します。

空き家を紹介する準備が出来た場合「空き家情報バンク」にも紹介されますので、ご協力をお願いします。

事務局からのお知らせ

◆第23回大津島ポテトマラソンが開催されます。

12月2日(日)

今年の目玉は…新たなコースが2つ設定されました。ハーフマラソン(約21キロ)と上級者向けウォーキングです。大津島の魅力をまるごと楽しめる大会にご協力ください。



◆やまびこ号の巡回日

9月12日(水) / 10月26日(金)

- 瀬戸浜自治会館 10:40~10:50
- 大津島郵便局前 11:10~11:30
- 馬島巡航待合所 13:00~13:30
- 刈尾巡航待合所 13:50~14:10

～行事予定～

◆大運動会 9月16日(日)

場所:大津島中学校(馬島)



◆敬老会 9月22日(土)

場所:大津島中学校体育館(馬島)



◆須金老人クラブ交流会 9月27日(木)

場所:須金

◆秋祭り 10月26日ごろ 天浦

26日(金) 馬島

27日(土) 刈尾・近江

28日(日) 本浦

◆大津島文化祭 11月3日(土)

場所:大津島中学校体育館(馬島)

編集後記

これから編集委員としてご協力いただく方をご紹介します。(アイウエオ順)

石丸一磨・安達壽富・安達照子・末兼正純・戸倉充博・野上トヨミ・松本千恵子・松本紀是・屋野廣志・六郎万淳一・島おこし隊員

【百聞は一見に如かず 百見は一行に如かず】という言葉どおり、百回見るよりも一回やってみるの大切さを教えていただきました。他の情報誌も参考にしましたが、編集委員さんのアイデアを取り入れると、どんな紙面が充実し、よりよいものへの期待がふくらみました。今後もこの息吹を大事にして、みんなで協力して編集していきます。 六郎万淳一

（お詫び）
5月にお知らせいたしました【6月号及び7月号】を発行できずお詫び申し上げます。今後は、編集の効率化を図り、改善してまいりますので、ご理解ご協力をお願いします。 編集委員

ひろしのつぶやき



文=屋野 廣志

大津島の情報誌として新しく発足する潮流に、大きな期待と発展を願っています。「ひろしのつぶやき」では、島内の広報及びお知らせも大切ですが、楽しい話題や時の話題などについて書きたいと思っています。

カタカナ語ばかり出てくると読む気がうすくなってしまふ。ならば、「周南市にある大型施設や、恵まれた交通網、飲食店などが一挙に、活性化を目指す」や「街を綺麗にして、周南市全体を公園の様な街にしたい計画」と書けないものだろうか。 そうする事で、私達高齢者も情景が想像され、早い実現を期待し、それがどのような形で大津島と関係してくるのかわかる。 鯉職を降ろした空を見上げながら、思いを馳せるのである。